



114
A 2829



目錄

國有二國之取調(拔萃)

一書及價格表

以上二部

一部 一部

大正
十一年
四月

1870



大正十一年四月
隈侯爵邸

恩論

一 係連セル鐵道ノ有ル諸國、中瑞西ハ私設鐵

道、ミラ有シ國有鐵道全リナカリキ

鐵道國有主義論者ハ常ニ瑞西ヲ券ラ具論証トセ

リ又國有主義ハ行政ニ治ノ國制ニ適スルモ立法

政治ノ國制ニ適セスト論スルモノアリ

一 瑞西國ニ本年一月以來私設鐵道員收ニ着手セリ

此ノ變化ハ鐵道國有問題ノ研究上最モ注意ヲ要

スルモノナリ

一 世界各國ノ鐵道ノ國有私有ノ關係左ノ如シ

(1) 國有鐵道ナキ國(九ヶ國)
一 エロンゴ、英國、メキシコ、パラゲー、秘魯、
西班牙、土耳其、合衆國、ウルグエー、

(1) 全鐵道ヲ國有トスル國 (ニヶ國)

エレグトニカラガ

(2) 鐵道ヲ有シ及管理スル國 (十七ヶ國)

ブルセシチナ、濠州、埃太利、匈牙利、比耳

義、ブレジル、カタダ、喜望峯、智利、丁抹、佛蘭西、獨

逸、グアテマラ、印度、那威、葡萄牙、魯西、瑞典、西

(3) 國有鐵道ヲ有スルモ自ラ管理セム私設會社

實付スル國 (三ヶ國)

希臘、和蘭、伊太利

一 統計(省略ス)ニ依レハ鐵道ヲ有シ之ヲ管理スル開

進國、多數ハ國有主義ヲ以テ主本トスルヲ見

一 歐洲大陸諸國ノ鐵道史ハ概ネ其裏邊ノ漏ラ一

セリ其沿革凡ソ左ノ如シ

一 國有主義ヲ持シ官設ヲ計リタル時期

二 財政上ノ困難ヨリ官設ヲ中止シ專ラ私設ヲ奨

励セル時期

三 私設鐵道發達シ之ヲ監督規制スル要務ヲ認メ

タル時期

四 國ニ於テ鐵道ヲ經營スル利ヲ費リ國有主義ヲ

主本トスル時期

一 鐵道制度ニ關スル考究ノ資料多キ諸國ニ於ケル

鐵道經營ノ事歴左ノ如シ

埃太利及匈牙利

一 埃太利ハ最初鐵道官設主義ヲ採リ大部ノ線路

ヲ布設セシカ今ヨリ(以下之ニ倣フ)四十四年程前

財政困難ヲ爲メ損失ヲ忍ビテ鐵道ヲ拂下ケ續ニ

年前ニ五七三吉米ノ鐵道ヲ布設シ二億法ヲ費セリ併シ豫算ノ不足ト
板條ノ須要ヲ考テ私設免許ヲ制テ始メ四十三年前ニハ五六〇吉米ノ私
設線アリ其後再ニ官線ヲ布設ト私線ノ買収又ハ委託ヲ努メ遂ニ
國中ノ幹線ハ皆テ政府ノ管理ニ歸セリ
一 比耳義ノ政策ハ運賃ノ低下運送ノ便利線路普及ニ於テ諸國ニ
劣ルコトナシ

和 蘭

一 蘭國ハ水利ノ便多キヲ以テ初メハ鐵道ノ要ヲ感セザリレカ六十年
前ニ海岸ハ普國ノ交通ノ爲メ九億ノロリシノ公債ニ依リ鐵道敷
設ニ着手セリ
一 三十八年前官線鐵道ノ大綱ヲ計畫セシモ國會ハ政府ノ營業ヲ欲セ
ズ私設會社ニ貸与ノ約ヲ爲サシメソリ之カ爲メ會社ヲ利レ國庫ヲ
挽セリ

一 二十三年前ノ會社ト契約條件ヲ改メタリ
一 十五年前ノ國會ハ私設鐵道ノ連絡不備、運賃不定等ノ弊ヲ知
リ國有主義ヲ是認シ私線ヲ買収シ又私設會社ト營業管理ノ契約
ヲ締結セリ
一 八年前より全國鐵道概テ官有トナリ改正契約ニ依リ會社之ヲ管
理ス

佛国

一 佛国ノ鑛道政策ハ多クノ変遷アリ

一 次序的制久主義ヲ以テ線路ノ方向ヲ調査シ經營

ニ着手シ次テ管理ノ主義ニ関シ政府議院ト七年

間ノ討議ノ末尚決セズ其二年後「エール」氏ノ案ニ

依リ尤ノ半官半私主義ニ決ス

鐵道用地ハ國有トシ鐵道建設ハ國庫ト私業ニ

分担シ持ニ期限ヲ定メテ國有ニ復歸スヘキ条

件ヲ付スルコト

一 此ノ方針ニ依リ私設鑛道投機的ニ勃興シ線路延

長セリ

一 五十年前ノ革命ハ鐵道起業ヲ沮喪セシメタリシ

ガ假政府ハ其救済策トシテ買収主義ニ着手セリ

ニ政府ハ直ニ交迭シ補助補給ニ依リ獎勵ヲ專一トセリ

一 邦翁三世ハ免許條件ノ變更固有復歸期限延長(九年)ヲ許可シ私設ヲ獎勵セリ又社債利子保証ニ依リ会社ノ完迫ヲ救済シ鐵道ノ普及ニ努メタリ

一 會社ハ公衆ノ益ヲ圖ラス專ラ私利壟斷ノ勢アルヲ以テ地方鐵道獎勵ノ法律ヲ發布セシモ大会社ノ妨害ニ依リ其効ヲ全フスル能ハス纔ニ一部地方ニ官線網ノ素ヲ形成セシニ過キス

一 普佛戰敗ノ為メ鐵道擴張ヲ感シ「フレシネ」等ノ有力者ハ固有ヲ主張シ擴張ヲ蓄リシモ財政ノ狀態私線ノ阻碍及政府ノ交迭ニ依リ遂ニ実行セラレス

一 十四年前ニ私設会社ト更ニ在ノ約款ヲ結ヘリ(1)官線ハ南西ノ一局部ニ限り会社線ニ附近スル線路ハ会社ニ讓渡シ其補償トシ南西線ニ近キ小線ヲ官有ニ移スコト

(2)官線ヲ巴里ト接続スヘキ線路ヲ官設セサルコト
(3)会社ハ約款ニ定メタル新線ヲ布設スルノ義務ヲ負フコト而シテ之カ建設費ノ一部ハ政府ニ於テ年賦ヲ以テ会社ニ補給スルコト

(4) 國庫ハ補給補助ノ為メ巨額ノ負担ヲナシ会社ハ獨リ營業專有ノ利ヲ壟斷ス

一 十七年前政府ノ官線縮小主義議院ニ失敗シ固有

主義ノ放棄スヘカラサルコト多数ノ是認スル所
タリ

一併国鉄道政策ハ世ノ非難ヲ免レス
伴太利

一併国ノ統一ハ孤立セル鉄道統合ノ時運ヲ惹起シ
政府ハ鉄道買収ニ着手シ一時固有論最盛ナリシ
カ次ヲ官線貸付論起リ管理方法調査ノ後幹線ヲ
国有トシ之ヲ三大会社ニ貸付ニ管理スルコト
ナレリ

普魯西

一六十年前私線免許ノ制ヲ採リ線路普及ノ為メ補
助奨励セシモ会社ハ成長ノ義務ヲ果サ、ルカ故
ニ後ニ官設擴張私設監督ノ主義ヲ厲行シ官線ノ

進歩アリ

一普併戦役ノ為メ官線擴張ハ一時沮止シ私設起業ハ投機的
勃興セリ

一二十五年前国会ノ特別委員ハ慎重ニ未国家経済ニ基キ
国有主義ヲ是認セリ

一ビスマルクノ公ノ国有政策(帝國財源ノ為メ)ハ独逸ニ排セ
ラレ普国ニ用ヒラレ買収ハ徐々且確實ニ行ハレ二年前ニ
ハ(ツェン、ルードルフ)と鉄道ヲ買収セリ

一国有ノ結果ハ運賃ノ整齊、安價及運輸ノ増加ト收支
ノ好成绩ヲ顯セリ統計ハ左ノ如シ

年次	人数	一吉米ニ対スル	收入	一吉米ニ対スル	一人ニ対スル收入
千八百八十五年	二四三、九六八		八一、九一		二、二六
千八百八十五年	二四三、九六八		八一、九一		二、二六

中略

千九百十九年 二九〇、六二三
 千九百二十年 九二一、三〇〇、〇〇〇

收支表

年次	收入 (マルク)	支出 (マルク)	益金 (マルク)
千九百二十三年	四三二、二〇〇、〇〇〇	二九五、〇〇〇、〇〇〇	一三八、一〇〇、〇〇〇
千九百二十二年	九二一、三〇〇、〇〇〇	六〇七、三〇〇、〇〇〇	三一三、九〇〇、〇〇〇

益金ノ用途

年次	利子 (マルク)	一般收入	餘剰 (マルク)
千九百二十三年	九五、八〇〇、〇〇〇	二、二〇〇、〇〇〇	四三、三〇〇、〇〇〇
千九百二十二年	一三二、六〇〇、〇〇〇	九九一、一〇〇、〇〇〇	

米 国

一 魯西亞下珠等ノ諸国亦国有主義ヲ政策トセリ

- 一 米英兩國鐵道ノ經歷ハ鐵トスヘシ
- 一 米國鐵道ハ社会经济上尤ノ弊アリ
- 一 射利ノ目的ヲ以テセル不必要線路ノ濫設
- 一 会社設立ノ詐謀空株ノ発行
- 一 鐵道ノ破産尤ノ如シ

社 数 哩 教 資 本

三〇六 三六、一五〇 四九三、五八八、〇〇〇

- 一 競争即運賃ノ戦争 (管理善悪ヲ顧ミス)
 - 一 運賃ノ不整不定及人場所ノ貨物對スル不正運賃ノ契約
 - 一 運輸聯合 (アール) ニヨル不當ナル運賃ノ固執
 - 一 会社ノ併合大会社ノ專制
 - 一 線路ニ負担スル負債ノ巨額ナルコト及營業配当ノ乱高
- 下(統計略ス)

一十年前條例ヲ發布鉄道監督ノ委員ヲ設ケシモ会社ノ抵抗ノ為メ論争訴訟ヲ多ク委員ノ命令行ハス又会社ハ国会ヲ動シ輿論ヲ屏塞セシムル勢アリ

英國

- 一 放任經濟主義盛ナル中ニ於テ鉄道創設アリ而シテ鉄道ハ運輸ト線路ト分離シ得ル如ク思考セリ
- 一 起業ハ私設会社ニ放任セル為メ其專横持ニ不当ノ運賃ヲ徴シ遂ニ世人ノ非難ヲ來セリ
- 一 五十八年前鉄道監督ヲ設ケシモ其監督ハ旅客ノ安全ニ関スル取締ニ止メ運輸ノ業務ニハ干渉スル能ハス
- 一 鉄道ノ投機的所業ハ逐次ニ加リシヲ以テクラフトストン氏ノ發議ニ依リ委員ヲ設ケ鉄道免許ニ関スル問題ヲ調査シ尤ノ報告アリ

尾

- 一 免許ノ方針及方法ノ不可ナルト。一 私設鉄道條例委員設置ノ必要。一 既往免許條例ノ不用。一 運賃ノ過當。
- 一 競争ノ害。一 鉄道專有ニ對スル豫防法ノ必要。一 新線ニ對スル買立期限ノ必要。
- 一 此報告依リ制定ノ法律ハ大修正ノ為メ無効ノモノトナレリ
- 一 其後屢委員ヲ設ケ鉄道問題ヲ調査セリ
- 一 線路ノ増加ト共ニ弊害モ増加セリ
- 一 合併行ハレテ會社ノ勢益偉大トナリ、會社ハ政府ヲ支配スルモノナリヤ將メ政府會社ヲ支配スルモノナリヤノ問題ニ付政府ハ討究ノ必要ヲ至スルニ至リ依テ上下兩院ノ委員ハ左ノ報告ヲナセリ
- 一 鐵道ノ專有業ナルヲ明認シ個人私業ノ觀ヲナシカラサルヲ斷言シ公共事業トシテ監督スルモノトセリ(千八百七十三年)
- 一 屢委員ヲ設ケテ調査ニ調査ヲ重キタルモ未歐洲大陸ノ如キ運賃

整齊の結果生るるハ其運賃モ高キカ如シ
歐洲諸國ノ實驗ニ依リ証明セル結果ヲ我鐵道ノ前途ニ汲スルハ
吾人ノ本分ナリ

各論

第一鐵道ノ秩序的發達

鐵道ノ發達ハ其延長ノ增加ノ目的トスヘキアラズ一般
事物ノ進歩ニ必要ナル秩序ハ鐵道ニ於テ殊ニ要件トス諸
外國並我邦ニ於テ鐵道ノ伸張ハ私設會社ニ負テ所
多シト雖比秩序ハ線網ノ發達ニ之ヲ私業ニ見ルヘ
カラス又望ムヘカラス是レ私業ハ營利ヲ主トスルカ故ニ利益
少キ線路ヲ延長セカシハナリ又若シ系統ハ線路ヲ起
業ノ目的トシ場合ト臣比狀勢不利ナレハ之ヲ遷延シ又
之ヲ廢スルヲ憚カラス強テ系統ヲ全フセトセハ國庫ヨリ補助カ
又ハ政府自ラ不利ノ線路ノシヲ布設スルノ所策ニ陷ラシ我邦鐵
道發達狀勢今ハ有ニ無ニ優レ主義ノ方針トスヘキ時期ニ
去リテ秩序的發達ヲ圖ヘキ時期正ニ達セリ

或ハ官設鐵道地方的競争ヲ惹起シ偏頗大線路ノ建設ヲ為スト行ハス
アレバ鐵道布設法ニ於テ線路方向及布設大體順序ヲ定ムルヲ以テ擇リ
ニ順序ヲ改メ偏頗ノ慮置ク為スニ責任ハ政府ノ爲ニ能ハセン所ナリ且地方
的競争ハ重シ地方線ニ起ルニシテ幹線ニ付テ比較的容易ニ緩急順序
ヲ定ムルコトヲ得ヘシ

第二章 鐵道事業ノ確定

商業ノ通盤タル投機ハ鐵道事業ニ於テ殊ニ之ヲ見ル株式好況ナレバ株券ヲ
増加シテ不急又ハ無謀ノ線路ヲ布設若クハ計畫見シキハ單ニ權利株式ノ
轉賣ヲ目的トスルコトアリ故ニ金融狀況變スル計畫圖ノ放棄起テ事業廢停ハ
會社破産トシ社會經濟活道ニ本々シテ生ラズシカシ

第三章 鐵道事業ノ管理

ハ會社トシテ一般管理ノ費用ヲ増加シ鐵道ノ奉還ニ適セズ之ニ及シ線路ノ統
一ニシテハ運輸ノ途徑ニシテ資本利用ヲ平均シ比較的ニ營業費ヲ節スル爲故ニ

短線ニ相合シ又ハ長線ニ作ラレテ統一ニ移ル自然ノ理勢ナリ然レバ線路ノ合同ハ
鐵道專有ノ弊ヲ離レハカス英米如キ大會社專恣人ノ之ヲ監督スル其
功ヲ奏スル所ナリ我邦鐵道ノ德義ハ彼ニ二邦如クナラザレトシ望ムトモ
會社營利ノ團體ニシテ德義ノ結合ニシテ人ヲ以テ鐵道統合ノ利ニシテ國家ノ管
理ニ求メカヘハカラス

或ハ官營ニ高臺的ニシテ人ヲ以テ旅客ノ便利運送ノ改良ヲ圖リ念之シ又官
業ノ法規議會ヲ諮詢シ受テ又日政府ノ技師型式ニ拘泥シテ經濟ニ注意スル
會社營利ニ致スル素ヲ其所ナラズ其便利ト改良トヲ固ニ有利トカ又ニ競争
ノ所ニ於テ人ノ若シ不利又ハ專有ノ狀ニシテ冷淡トシ世人ノ詭人所ナリ故ニ私
設鐵道ニ同ク利益ノ便利ヲ見ルニ其目的ヲ以テ整調セシク便利ヲ望ムハ
規則ノ議會ニ奉テ官業ト離レハカラズ且會社ニ再規程ト會議トシテ其既
セラレテ先カシ又私會社業ニ經歷日淺キヲ以テ未ダ政未諸邦ノ如ク
役員ノ專制ヲ持テ終極訴訟トナリ株主會ノ監督ヲ廢免シ役員ノ行

利益ヲ負擔スルカニ者其一ヲ撰マシム

英米の両国十年前、独逸の佛モ其後、結果於レトシテ此等ノ況
華、個人、利益ヲ主トス。道債ヲ廢シ、其後、法則ニ適シテ、道債ヲ以テ
之ニ代ハル、必要ヲ示ス。

第五軍車ノ關係

軍事ノ關係：自兵家ニ至テ、經濟ノ後、以テ之。

以上右項ノ比較、以テ、鐵道ノ本質ノ利用ニ於テ、固有主義ノ私營、優ニ
ハ、是レヲ起シ、予ハ有テ、鐵道ヲ國、管理ニ歸ス。極端ニ有テ、
性、故、國鐵道ノ幹線ヲ收攝シ、鐵道ノ利用ヲ整調ス。是レ、局地
線ノ如キハ、世々、固有トス、要員ス。

局地線：對テ、國家ノ監督ハ、單ニ、監視ト督責トヲ以テ、之ヲ遂テ、得テ、
要、國有線ヲ主カトシ、向テ、環境ヲ撰ケテ、私設ニ、望ム、也。

鐵道或ハ、政府ガ、鐵道ヲ管理ス。結果、官吏ノ、教ヲ、得、政府ノ、權力ヲ、
以テ、政府ノ、經濟ヲ、定メ、公共、利益ト、高キ、需用ヲ、斟酌ス。且、官、
道ハ、政府、費用ノ、器トナリ、易シト。

此等、英、作、在、利、鐵道、委員、鐵道、管理、私、社、ニ、委、ス、決、議、ヲ、
主、因、ナリ、然、レ、伊、國、當時、和、政、之、ヲ、以テ、起、シ、ナ、ル、ノ、
任、ヲ、重、シ、國、利、及、福、ヲ、施、政、ノ、方、針、ト、為、ス、ハ、伊、國、例、ヲ、
或、ハ、鐵道、ハ、國家、管理、下、ニ、統、一、ス、ラ、要、ス、組、合、ノ、
ト、稱、ス、リ、以、組、合、ノ、組織、ハ、鐵道、ヲ、主、ト、シ、伊、國、
ハ、ヲ、得、ス、(英國、稱、集、議、會、組、合、組織、中、最、良、ト、シ、
理、一、中、央、集、議、會、流、シ、鐵、道、ヲ、主、ト、シ、
適、当、ナ、組、合、ニ、ヨリ、之、ヲ、選、シ、ハ、ヲ、得、
官、有、鐵道、一、政府、財政、都合、ヨリ、浮、沈、不、定、
官、業、ニ、比、ス、レ、ハ、幸、能、後、進、步、ニ、ヨリ、浮、沈、不、定、
官、業、ニ、比、ス、レ、ハ、幸、能、後、進、步、ニ、ヨリ、浮、沈、不、定、

又、政府、鐵道、管
理、一、中、央、集、議、會、流、シ、鐵、道、ヲ、主、ト、シ、
適、当、ナ、組、合、ニ、ヨリ、之、ヲ、選、シ、ハ、ヲ、得、
官、有、鐵道、一、政府、財政、都合、ヨリ、浮、沈、不、定、
官、業、ニ、比、ス、レ、ハ、幸、能、後、進、步、ニ、ヨリ、浮、沈、不、定、

又官簿之實率ヲ増加シテ向接ノ收斂ヲ爲シ之共利用ヲ顧ミタルノ慮ヲ
ヲトシテ

一、一級輸入ニ擇ハルキ益金額ノ制限

一、運賃ニ関スル諸約金條ノ設置

一、豫集ト共ニ運賃、是等ヲ提出スルコト

ノ法ヲ設ケ之ガ任擔ヲシテモ亦可ナリ(清國ノ六百二十二年ノ法律)

動鉄道ノ國有ニ由ラズハ軍率ノ爲メニナラス平時ノ競争ノ爲メ
ニモ必要ナクナリト稱スルモノアレバ事實ニ之レニ在リ隣國ノ競争
國有鉄道ニ至リテハ寧ロ之ヲ破ラナリ

結論

是ニ在テハ如何ニテ幹線ノ私設鉄道ヲ國家ノ管理ニ移スヘキ由ノ問
題生ス

此問題ヲ解決スルニハ適當ノ委員(國庫ノ官司ヲ配子ス)ヲ組織シ確實ニ材
料ノ蒐集ト之カ正當ナル查覈トヲ要ス

予ハ其方法ノ要目ニ關シ左ノ數条ヲ提議セリトス

一、私設鉄道ノ買収ハ公共經濟ヲ圖ルヘキ國有鉄道ノ本分ヲ目
的トシ不景氣救済等、如キ事情ヲ目的トスヘカラス

一、官設鉄道管理制度ノ改良

一、官設鉄道ノ管理ニ對スル保障(右海峽屬國法律及公約ノ制定等ノ如シ)

一、國有鉄道ハ單ニ所有ノ主義ニ重キヲ置カスレテ管理營業
業ニ至リテハ之ヲスヘシ

買収ノ方法ハ右條條ニ付多少ノ差異ヲ要セシ私設鉄道條例

規定ノ方法以外(一)五年毎ノ平均配当額ノ廿五倍(償還)
(即ち全額ノ扣除社債其他ノ義務ニ對スル相対ナル條件ヲ以テ)ヲ以テ買収額トス(二)普通金利ト配當
 割合(同上ノ條件)トノ比例ヲ建設費ニ乘シ買収額ヲ定ム等
 亦一方法ナラシ

全國鐵道中主要ノ線路ヲ國有トシ其管理運用ヲ統一スルコ
 トノ軍事上經濟上ニ便益多キハ喋口ヲ復タス歐洲大陸諸國ノ
 實績ニ徴スルモ明ニシテ私設鐵道條例ニ買収ノ規定ヲ設ケタ
 ルモ其意之ニ外ナラサルハ今我邦ノ鐵道業ハ經濟界萎微ノ為
 メニミテ除ク外収益ノ増加豫期ノ如クナラス株式ノ價格著シク低
 落シテ容易ニ回復ノ勢ヲ呈ス而シテ一方ニ外國人ニ鐵道株式ヲ
 所有セシムヘキヤ否ノ問題發生セルカ若シ有力ナル外國資本家ヲシテ鐵
 道ノ所有權ヲ得セシムルニ於テハ私設買収ノコト大ニ困難ヲ加ヘ竟ニ云
 フヘクシテ行ヒ難キニ至ルノ虞ナシトモ果シテ然ラハ私設買収ノ好時
 機ハ或ハ今日ニ在リテ若シ等閑ニ付シ去ラハ他日華購ノ悔シモ亦
 未タ知ルヘカニ依テ試ニ買収スヘキ線路ノ選擇年買収見込價格ノ
 計算買収後收支ノ豫算等其大體ヲ考察スルニ
 一、全國ノ主要線路ヲ奉テ買収スルニ於テ一時ニ買収ノ協定ヲナシ難キ

ノニテ其内最重要ナルモノヲ買収スルニ於テ目的ノ大勢ヲ達シ得ル
 カ故ニ最重要ノ線路トシテ峯ノキハ日本山陽九州関西西武西成
 六線トス(西成ハ幹線ノ一部ニ非ルモ現在官線ノ使物線延長ハ其ノ
 ラルヲ以テ其管理ヲ統一スルノ便利顯著ナリトス依テ之ヲ加フ
 其内九州ハ本主線路ト直捷聯絡セラルカ故ニ関西官線ノ併行線
 タル位置ニ在ルカ故ニ孰シモ延ク之ヲ除クモノトスルハ日本山陽甲武
 西成ノ四線ヲ最速ニ買収スルヲ可ト認ム

二、前記六線買収ヲ甲案トシ西線買収ヲ乙案トシ之カ為メニ西武
 各費額ヲ概計スルニ二法アリ一ハ明治二十五年年度以来各鐵道
 ノ生産的資本ニ對スル益金ノ平均割合ヲ算出シ之ニ最近資本
 総額ニ乘シ更ニ之ヲ二十五倍シタルモノニ今後拂込ラナスハ其資本
 金及右線共ニ線路延長等已ニ計画済ノ事業ニ對シテ今後
 支出ラ要スル見込金額ヲ加ヘタルモノニシテ即チ利率ヲ百分ノ四トシ

買収價格ヲ割リシメモトシ一ハ同下市場ノ形況ヲ推測シ買収
 見込價格ヲ算出シモトシ前記ノ如ク今後ノ拂込高及擴張改良
 見込費ヲ加ヘタルモノトス(別表諸表ニ詳シク)而シテ前記兩者ヲ
 比較スルニ其差額ハ

甲案	三九、五九、一八〇
乙案	三三、八、七〇

因ニシテ即チ買収價格ハ益概計
 三、買収後是等線路ヲ運送スル益金ヲ豫算スルハ甚困難ナルカ若シ四
 分ノ利率ニテ買収スルヲ得ルトハ此利率ニ尙ルハ手金金七モトシテ大
 差ナカレリ又線路延長等ニ要スル費額ニ對シテモサクモ右同一利
 率ニ尙ルハ手金金六取得ノ見込アルニ故ニ政府ニ於テ四分利付公債ヲ以
 テ資金ヲ募集シ得ルカ又ハ公債ノ代價トシテ交付シ得ル場合ハ因
 庫ハ損失ヲ被ラズテ主要線路一ノ便宜ヲ得ヘシト雖モ会社ハ右時未
 収益ノ増加ヲ見込ミテ少シニテモ價格ヲ高メトカムルニ相違ナク政府
 ハ是等線路ハ向有三端ニ先後必ス諸程ノ改良擴張ヲナスル必要

